編集後記

こんにちは．関口朋彦さんの後任として，2025年1月から遊星人編集幹事に就任しました，東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻 助教の野津翔太です．編集委員自体は着任から4年目で，これまで特集「若い惑星および周惑星円盤・衛星形成研究最前線」(2024年9月号･12月号掲載)の企画･編集などを担当させて頂きました．三浦均編集長および他の編集委員の皆さまと協力させて頂き，微力ながら遊星人の校正作業，記事の更なる充実に貢献させて頂ければ幸いです．

遊星人には毎号多種多様な記事が掲載されますが，その中で私が毎回楽しみにしている連載記事の一つが，「遊星人の海外研究記」です．2019年3月号に初回の記事が掲載された後，今回の荻原正博さんの記事を含めこれまでに17本の記事が掲載されています．（私もオランダでの研究生活について，2021年3月号に記事を執筆させて頂きました．）渡航に至る経緯，海外で始まる新しい研究や仲間との交流，慣れない異国の環境だからこその苦労やちょっとした事件，そして現地の文化・生活の実情まで，執筆者の皆さまが得た貴重な経験の一端を追体験させて頂く感覚で，毎回楽しみに読ませて頂いています．また，コロナ禍に海外研究生活を送った皆さまの記事からは，当時の大変な苦労や経験を拝読させて頂き，心に残るものがあります．2024年9月号掲載の記事で芝池諭人さんが海外研究生活を，”自分の人生にとっての「黄金の時代」” と表現されていますが，私自身を振り返っても単に研究の幅が広がるだけでない，その後の(研究者)人生の転機となる”何か”を得られるのが海外研究生活かなとも感じています．将来の海外での研究生活に興味を持つ (あるいはこれまで興味はなかったけど読んでみようかなと思った) 後輩の皆さんには，ぜひこれまでの連載記事に目を通し，執筆者の皆さまの海外研究生活の一端を覗いて，何かを感じてもらえればと思います．改めまして，執筆者の皆さまと担当編集委員の黒澤耕介さんに感謝申し上げます．

その他今回の遊星人は，最優秀研究者賞受賞記念論文と最優秀発表賞受賞論文のダブル掲載に加え，月面帯電･木星JUICE･系外惑星Ariel･金星あかつきなど，現在運用中&将来計画に関係した記事も充実のラインナップです．今後も奮っての投稿，お待ちしております．(編集幹事 野津翔太)